

つくば市在宅医療・介護連携推進事業 令和2年度 多職種連携のための意見交換会

日時：令和3年（2021年）1月29日（金）
ZOOMによるオンライン開催

当日の内容

- 講演 「多職種連携のために気を付けたいこと10、退院前情報共有チェックリストの活用について」
成島クリニック 医師 成島 淨 氏
(つくば市在宅医療介護連携推進協議会委員)
- グループワーク 「コロナ禍における多職種連携の課題とその解決法」

参加者

種別団体の代表者、地域包括支援センター代表者に出席いただきました。

医師：2名	歯科医師：3名	薬剤師：2名	
医療ソーシャルワーカー：3名	主任介護支援専門員：5名		
看護師：1名	訪問看護師：3名	退院支援看護師：3名	保健師：2名
理学療法士：2名	言語聴覚士：1名	作業療法士：1名	
社会福祉士：3名			

合計：31名

意見交換会の目的

つくば市の医療と介護の専門職が、つくば市の在宅医療介護連携の推進、そして地域包括ケアシステムの構築に向けて、多職種が情報・課題の共有を行いながら顔の見える関係を共に築き、必要な具体的な取組について主体的に協議・検討を行います。

テーマ

多職種連携のために気を付けたいこと10、退院前情報共有チェックリストの活用について — コロナ禍で多職種連携の課題となっていることとその解決法 —

多職種連携のための意見交換会は、医療・介護専門職間の顔の見える関係づくりの場として実施しており、例年100名前後の専門職の方々にご参加いただいております。今回の意見交換会は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、オンラインでの開催といたしました。また医療・介護に関わる種別団体から2, 3名ずつ代表としてご出席いただき、種別団体の相互理解、団体間での連携体制構築を目的に実施いたしました。在宅医療・介護連携推進協議会では多職種連携の課題の解決を目指し、ワーキンググループにおいて協議の上、「多職種連携のために気を付けたいこと10」、「退院前情報共有チェックリスト」を作成しました。今回はこれらのツールの周知と活用を目的に、同協議会委員の成島浄先生よりお話いただきました。グループワークでは事前に種別団体からヒアリングしたコロナ禍における多職種連携の課題を含め、今在宅ケアを提供するために必要なこと、多職種連携の課題の解決法について話し合いました。普段と形は違いましたが、専門職同士が話合う場の必要性を感じる会となりました。

多職種連携のために気を付けたいこと10、退院前情報共有チェックリストは別紙資料をご確認ください！

講演

「多職種連携のために気を付けたいこと10、 退院前情報共有チェックリストの活用について」

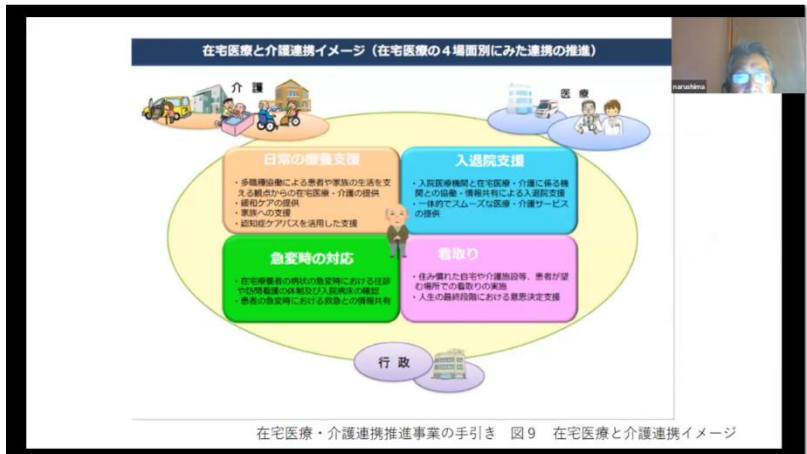
成島クリニック 医師 成島 淨 氏

(つくば市在宅医療介護連携推進協議会委員)



成島クリニック 成島 淨 医師より、在宅医療介護連携推進事業において、地域のありたい姿に向けてPDCAサイクルに沿った継続的な取り組みが必要であること、医療と介護の連携した対応が求められる「4つの場面」についてお話いただきました。またつくば市在宅医療介護連携推進協議会における多職種連携のために気を付けたいこと10（多職種連携のためのエチケット）の作成、退院前情報共有チェックリスト作成等の取り組みをご紹介いただきました。コロナにより急激に変化した環境下においても、継続した医療介護関係者間の連携が重要であることをご提示いただきました。

※内容については、講演資料をご覧ください！



今回の意見交換会の内容

事前にヒアリングした各種別団体からの「コロナ禍における多職種連携における課題」からは、新型コロナウイルス感染症流行以前から課題となっていたことが、環境の変化によりその解決がさらに難しくなっている状況がみられました。

コロナ禍である現在含め、コロナ以前からの課題の解決について以下2つの場面に絞り協議しました。

①入退院支援の場における多職種連携について協議。

②日常療養生活支援の場における多職種連携について協議。

グループワークもオンラインで実施し、その後発表も行いました。オンラインではありますが、時間が足りないと感じるほど活発な意見交換がなされました！



各班の協議内容は別紙をご覧ください！